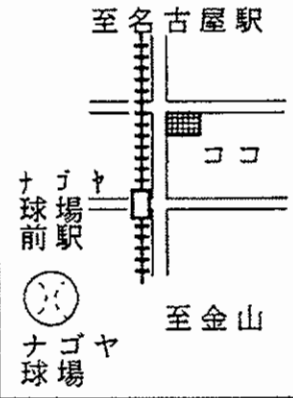


補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

ミニコミ 補償



発行日 発行所 (株) 新日 TEL 052-331-5356 編集者
 3ヶ月毎1回 名古屋市中川区山王一丁目8-28 FAX 052-331-4010 秋山学

平成七年度のミニコミ発送

例年の如くであります。昭和63年8月第1号「シンニチ補償ミニコミ」を発行して早いもので7年26号となりました。この度、これまで以上に用地業務を担当されるより多くの皆様に御理解いただくため、愛知、岐阜、三重県から新たに静岡、長野県へと拡大して発送させていただきますことと致しました。

今後とも補償業務及び業者としての「情報」を継続して発行発送することにより多くの皆様と接し、情報交換及び収集を行って、補償コンサルタントとして一層の努力、資質の向上を目指す覚悟でございます。

今後ともよろしくお願い致します。

年四回定期(二月、五月、八月、十一月)発行 (M・A)

「起業者へ出向して」

2年間であります。起業者へ業務委託として出向し、用地事務をほんの僅か御手伝いして来ました。

それまでの私は、補償一筋で11年。この間、一般住宅から工場・倉庫や神社・仏閣といった建物から、営業補償・事業損失まで手掛けることができた。補償の仕事なら何とかこなす自信はありました。

しかし、頭の中では理解していたつもりで、用地事務を目的の当りにして改めて、用地の仕事量の多さに驚かされ、用地担当の方々の土地や建物、あるいは登記や税務といった知識の豊富さと責任感の強さに驚かされ、又、調査や書類の多さと煩雑さに驚かされました。

出向先での私の仕事は主に業者の成果品のチェックでしたが、地元説明会、単価発表、契約書を始めとして書類の作成、税務署への事前業務から用地交渉、調印、登記、用地の管理と起業者でなければ経験できないことを起業者用地職員の後ろからついて行く形ではありましたが、経験させてもらうことができた、今までの私の仕事「用地」の中の「調査業務」のさらにその中の「補償業務」といういかに小さな世界であったか・・・2年間の経験で本当に視野が広がったおもいです。

その中で用地交渉は、補償コンサルタントからの成果品を自分でチェックして、完璧と自信を持ったもの

でも、地権者へ伝えるには相当勇気がいりましたし、その数字で契約書を作成する前には何度かコンピュータで処理した数字を計算チェックしました。これには最初も怖かったですし、最後になっても怖かったです。

又、視野の広がりを覚えさせてもらったのは、自分の属していた組織と違う組織の中で働くことにより、「新日」という会社が私にとって外から見ることができ、今まで見ることができなかった面を見られたのも貴重な経験だと思えます。

私にとって2年という起業者への出向は、これからの補償の仕事をして行く上で様々な形と、目に見えない部分でプラスになると思えますし、違う組織を見たことにより、会社の中でも、事務処理方法の問題点、仕事の進め方の問題点、人材



育成の問題点等といった点についてもプラスになりました。

この項の当初のタイトルは「起業者は何を求めたか?」でしたが、私としてはまず雑感を吐いた文章によってでも綴ることにより気持ちを切り替えて、2年間の様々な経験を、形にしていきたいと思えます。とても数日で当初のタイトル通りの文章はまとまりそうもありませんでした。

最後になりましたが、〇工事事務所用地課の皆様、大変御世話になりました。心より御礼を申し上げます。

又、2年間私の抜けた分をカバーしてくれた新日の仲間にも感謝したいと思います。

御指導下さった官庁の皆様、ありがとうございました。(H・K)

午後三時

私も、世間で俗にいう団塊の世代である。人生を時計で例えると、自分は何時時だろう。人生を一日に置き換えると、それを一日に置き換える。一時間が三年となる。すると二十歳は朝の七時前、いよいよ社会へ出ていく前の準備期。三十六歳は正午。仕事盛りで太陽の光が真上から降りそそぐ輝かしい時期である。では団塊の世代は?。時計の針が午後三時を過ぎたあたりである。一時間ほど前と違って陽差しが少し弱まったもののまだ明るい時間帯である。

ある。朝の始業時から仕事を始めて六時間、少々中だるみの時間である。今日完成させる仕事の段取りを考えたり、アフター・ファイブに胸を弾ませたり、ちょうど階段の踊り場でペース・チェンジといったところではないだろうか。考えると午後三時は今日の日本経済にも当てはまるかもしれない。がむしゃらに突っ走ってきた戦後の日本もやっぱり四十五・四十六歳。午後三時である。競争から共生へ、成長から成熟へ、働き過ぎから創出へ、いま踊り場でペース・チェンジの真っ最中である。

さて、午後三時の団塊の世代は踊り場でひと息ついて、上ってきた階段を見下し、これから上がっていく階段を眺めている。もう何も考えずに、がむしゃらに階段を上るだけというようないことはしない。来た方を振り返り、自分自身の姿を見直しているのだ。

午後三時の陽差しは、まぶし過ぎず、きつすぎず、人に優しい温さを持っている。

最近では、こんな団塊の世代の姿をイメージして、起業者及び地権者に接し、それぞれの立場を十分に理解及び配慮しつつ業務に取り組んでいきます。

(H・H)

平成七年度新入社員紹介

迎 気広は 補い
 を 電福に、て
 卒 械ま一 け育
 の 機野に だて
 新 木のと 業と
 人 土系と 者
 は 4 化る 者
 部 築文あ 難技
 査 建ので が務
 調 は等要 成業
 償 務済必 養償。
 補 業経が。の補す
 日た償・識す者、ま
 新し補律知で術ち
 (株)まる法礎事技持
 月りすら基仕、をし
 4な当かのいが味待
 年と担系で薄員興期
 7とが科まの社にを
 成こ々理野み入務と
 平る我の分染新業こ
 え 等い馴 償く

新人紹介

☆浅井亮志(昭和四十六年五月三十一日生)
 愛知工業大学 工学部建築学科卒
 愛知県西春日井郡出身

☆加藤貴浩(昭和四十六年五月二十四日生)
 福山大学 工学部土木工学科卒
 岐阜県土岐郡出身

☆清 千晴(昭和四十七年十月二十七日生)
 福井工業大学 工学部建設工学科卒
 静岡県富士市出身

☆石垣頼子(昭和四十六年八月四日生)
 岐阜女子大学 家政学部住居学科卒
 三重県鈴鹿市出身

(M・A)